

第11回 認知症医療・介護推進会議 2022.8

認知症施策推進大綱における 進捗状況と課題



公益社団法人 **認知症の人と家族の会**

大綱策定時の「家族の会」の意見から

【評価できる点】

- 認知症を国全体の重要な課題としてとらえ、認知症の人や家族の視点を重視しながら、関係省庁が一丸となって施策を推進していくとする考え方
- 「認知症本人からの発信支援」が新たな項目として取り上げられたこと

【問題点・意見】

- 家族支援については「認知症カフェ」しか例示されておらず、「家族の会」の「つどい」のようなピアサポートが、現実に役割を果たしているのに、評価されていない
- 地域包括支援センターの人的、財政的体制を強化すべき。また、認知症地域支援推進員の配置を必須にし、認知症のことをよく知っている人を配置すべき
- 身体拘束・権利擁護に関しては、「認知症の人の受診・受療・入院・入所拒否件数ゼロ」、「身体拘束ゼロ」をぜひ数値目標としてあげるべき

策定3年での進捗状況と課題

初期集中支援チーム

- KPIでは訪問実人数と医療・介護サービスにつながった者の割合を目標にしているが、中身の見直しに役立つ好事例や失敗例の共有も必要

認知症疾患医療センター

- 「うちの病院は診断するだけ」と認知症疾患医療センターで言われたという声も少なくない。診断後の支援機能の充実への評価は？

地域包括支援センター

- 市区町村から委託されている地域包括支援センターが絡んだ認知症施策の実施について、業務評価があいまいになっている

認知症介護実践者研修

- これまであった「介護家族の体験談を聞く」という時間が、研修カリキュラムから外されてしまっている

策定3年での進捗状況と課題

認知症地域支援推進員

- ・推進員の配置状況（複数配置と専任化は進んでいるか）

認知症カフェを全市町村に普及

- ・13%の自治体が未整備。家族の介護負担の軽減として機能しているのか

チームオレンジ

- ・チームオレンジに取り組んでいる自治体は僅か8%。地域づくりとしてのわかりやすいコンセプトの打ち出しが必要

若年性認知症支援コーディネーター

- ・医療機関にコーディネーターがいるが、その病院だけでやっていて、外部に出していない
- ・コーディネーターの任期が5年で契約が終了。継続性が担保されていない